

看護学科 [4年制 / 男女]

AP

入学者の受け入れ方針

アドミッションポリシー

看護学科では、卒業認定・高度専門士授与の方針 (DP) および教育課程編成・実施の方針 (CP) に定める教育を受けるために必要な、知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を各種入学試験を通じて受け入れる

1. 穴吹学園の教育理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある人
2. ものごとを論理的に思考する力を高められる人
3. 自分と他者を大切に、自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を高める努力ができる人
4. 人々の健康と生活に関心と学修意欲を持ち、看護専門職として多職種と協働し続ける意欲のある人

CP

教育課程編成・実施の方針

カリキュラムポリシー

看護学科では、DPに掲げる能力を身につけるための教育課程として、必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を行う

1. 国家資格に必要な専門的知識を1年次から段階的・主体的に学べるカリキュラムを構築している
2. 健康の危機的状況を判断し、科学的根拠をもとに基本的な看護援助が実践できる能力を獲得できる
3. 少子・超高齢化ならびに多様な社会において、人々が自分の健康に関心を持ち生活ができるよう、医療・福祉施設、地域社会の協力・連携のもとで保健指導力を育成する
4. 講義・演習において各教科の達成目標・到達点を明確にし、学生の成長を客観的に評価するとともに学生自身が自己成長につなげる
5. 学年の枠を超えて学び合う教育環境により、学生が成長を実感しながら学べるプログラムを構築している

DP

目指す人材像

ディプロマポリシー

看護学科では、履修規程に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たしたうえで下記の能力を備えていると判断した場合に、卒業認定および高度専門士の称号を授与する

1. 看護の知識・技能の習得により、看護師として地域社会・国際社会に貢献できる
2. 対象の生命を守るために必要な観察力・判断力を身につけている
3. 科学的根拠に基づいた看護技術力を身につけている
4. 4年間教育の中で自己の将来像をみつめ、職業観と社会人としての倫理観を醸成し他者に対応できる力を鍛える

		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>	<前期>	<後期>
到達目標		1. 人間の生命の尊厳を理解できる。 2. 主体的に学習に取り組む必要性を理解する。	1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。 2. 看護に必要な基礎的な知識と技術を習得する。 3. 自己の健康について考えることができる。	1. 対象の生命を尊重できる。 2. 主体的に学習に取り組む習慣を身につける。	1. 人間の成長発達および健康状態に応じた対象の理解ができる。 2. 科学的思考に基づいた基礎看護技術の実践ができる。 3. 自らの健康に関心を持ち、人々の健康について考えることができる。	1. 個別性を尊重した信頼関係を築くことができる。 2. 自らの課題を見つけ、学習に取り組むことができる。	1. 科学的思考に基づき対象に応じた看護過程を展開できる。 2. 対象や関係職種とともに健康問題の解決に向けて考えることができる。	1. 人々の権利を擁護する重要性を理解できる。 2. 看護に対する探究心を身につける。	1. 自らの看護観を明確にすることができる。 2. 看護学の発展のための研究方法を理解できる。 3. 対象の健康問題の解決のために、関係職種・関係者との連携・調整の必要性を理解できる。
基礎分野	科学的思考の基盤	教育心理学 教育学	情報科学概論 情報モラル 論理的思考の基礎	コンピュータ情報処理演習 看護物理学					医療社会経済学
	人間と生活社会の理解	倫理学I 家族社会学 コミュニケーショントレーニングI 法学概論	英語コミュニケーション	コミュニケーショントレーニングII			コミュニケーショントレーニングIII 人間理解の基礎		倫理学II
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学I 人体の機能学I 臨床生化学	人体の構造学II 人体の機能学II 病理学	人体の構造学III (演習) 臨床栄養学					
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	疾病治療学I (呼吸・循環・消化器)	疾病治療学II (内分泌・免疫・血液) 疾病治療学V (生殖・周産期) リハビリテーション論	疾病治療学III (脳・運動・精神) 疾病治療学IV (小児・腎・泌)		臨床薬理学		
	健康支援と社会保障制度			社会福祉・社会保障論	公衆衛生学	保健指導論 (健康科学概論含む)	保険統計	看護と法律 (保看法・関係法規)	
	基礎看護学 地域・在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	基礎看護学概論I (概念・歴史)・II (倫理・理論) 基礎看護技術I (コミュニケーション・感染) 基礎看護方法論I (環境・活動)・II (清潔) 基礎看護技術II (バイタル・記録)	基礎看護方法論III (食事・排泄) 臨床援助技術論I (与薬) 臨床援助技術論III (経過別・症状別) 看護演習I 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論	臨床援助技術論II (検査・治療) 基礎看護技術論III (フィジカル) 在宅看護概論 看護演習II 成人看護方法論II (アレルギー・血液) 老年看護方法論I (運動・腎) 小児看護方法論I (発達段階別) 母性看護学概論 臨床援助技術論V 臨床援助技術論IV (看護過程)	地域・在宅看護方法論I (家族援助) 看護演習IV 成人看護方法論III (脳・代謝) 小児看護方法論II (症状別看護) 母性看護方法論I (妊娠・分娩) 精神看護学概論	地域看護学 地域・在宅看護方法論II (技術) 看護演習V 老年看護方法論III (看護過程) 小児看護方法論III (看護過程) 母性看護方法論II (産褥・育児)	看護演習VI 看護演習VII・VIII 精神看護方法論I (症状別看護) 成人看護方法論IV (消化器・生殖)	看護演習III 看護演習IX 精神看護方法論III (看護過程) 地域・在宅看護方法論II (展開)	精神看護方法論II (生活)
	看護の統合と実践				救急蘇生法I	救急蘇生法II	看護研究I (基礎)	看護研究II (実践) 救急蘇生法III 看護の展望 看護演習X・XI	国際看護論 災害看護論 看護管理論I・II 総合セミナーI・II・III
臨床実習		基礎看護学I実習 (日常生活援助)	基礎看護学II実習 (看護過程)	成人・老年看護学I実習 (看護過程)	成人・老年看護学II実習 (急性期・回復期) 成人・老年看護学III実習 (慢性期・終末期) 成人・老年看護学IV実習 (リハ・継続)	小児看護学実習 母性看護学実習	地域・在宅看護論実習 看護の統合と実践実習 精神看護学実習 生活援助実習 (施設)		
スケジュール	4月	新入生歓迎行事 入学前学習 入学式 新入生オリエンテーション	宣誓式 看護リフレクション 穴吹祭 夏休み スポーツ大会 冬休み 春休み	新入生歓迎行事 宣誓式 看護リフレクション 穴吹祭 スポーツ大会 冬休み 春休み	救急蘇生法 (日赤救急員救急法) 臨床実習 (成人I) 看護リフレクション 医療系海外研修 (※希望者) 春休み	新入生歓迎行事 宣誓式 看護リフレクション 穴吹祭 スポーツ大会 冬休み 春休み	新入生歓迎行事 入学前学習 入学式 新入生オリエンテーション	宣誓式 看護リフレクション 穴吹祭 夏休み スポーツ大会 冬休み 春休み	新入生歓迎行事 宣誓式 看護リフレクション 穴吹祭 スポーツ大会 冬休み 春休み
	5月								
	6月								
	7月								
	8月								
	9月								
	10月								
	11月								
	12月								
	1月								
	2月								
	3月								

目指す資格

- 看護師 [国家資格]
- BLSプロバイダーコース合格 (日本循環器学会)
- 赤十字ベーシックライフサポーター認定 (日本赤十字社)

主な科目内容

教育心理学	人格形成および発達に果たす教育の役割を理解し、自他ともにその関わり方に教育的配慮ができる力を養う。コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。
教育学	教育の諸分野 (理論・教授法・学級運営・カリキュラム) に関する基礎知識、最近の教育課題、および学校現場での実践について学ぶ。
コンピュータ情報処理演習	コンピュータによる情報処理の基本操作、及びデータの情報化を看護に活用するための基本技術を学ぶ。
倫理学 I・II	社会的存在としての人間共存の規範・原理から、社会的合意により成り立っている倫理に基づいた看護実践の根拠を学ぶ。
コミュニケーショントレーニング I・II・III	対人援助の基礎となる自己理解・他者理解、およびグループ活動に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ。また、実習時には自己評価・他者評価 (患者・指導者・教員) により自己のコミュニケーション能力の自己分析をし、新人看護師として自分の意見や感情をアサーティブに表現できる能力を身につける。
人体の構造学 I・II	看護観察・看護判断・看護技術を根拠に基づいて実施するために人体の構造を系統立てて学ぶ。
人体の構造学 III (演習)	解剖体の目視により人体の構造を系統的に形状・位置関係を確認し、解剖学用語で説明するとともに、科学的看護の根拠について学ぶ。
疾病治療学 I・II・III・IV・V	症状観察・看護判断・看護ケアを科学的に根拠に基づいて実施するために、人体に起きている当該領域にかかわる疾患の臨床症状・検査所見、画像所見などについて学ぶ。
リハビリテーション論	病院や施設だけでなく在宅療養者や地域で生活している人を対象にリハビリテーション計画を把握し、チームの一員として活動・調整できる基礎的技術を学ぶ。
看護と法律 (保看法・関係法規)	看護実践において生じている様々な問題を制度・法律との関連、及び人々の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や保健医療福祉サービスを評価し調整するために必要な、保健医療福祉の法的基盤を学ぶ。
社会福祉・社会保障論	生活者の保健・医療・福祉サービスを効率的で質の高いものとするために、社会福祉・社会保障の理念・法制度・体系及び生活支援のあり方を学ぶ。
保健指導論	人々の心身の健康、疾病・障害予防、疾病の発生・回復及び改善過程と社会的条件との関連を学ぶ。健康を維持するための自然治癒力・ホメオスタシスの考えを基に病気の科学的な見方を学ぶ。患者家族の生活習慣等行動変容への支援の在り方、および健康な生活を維持・改善・創造するために必要な社会資源の活用方法を学ぶ。
基礎看護技術論 I・II	看護展開の基礎となる対人関係技術、感染予防、バイタルサイン技術の基礎を学ぶ。
基礎看護方法論 II (清潔)	対象の個性性をふまえた清潔援助を実施するための基本的技術・観察力・判断力を演習を通して学ぶ。
臨床援助技術論 I (与薬)	既習の知識を活用し、薬物療法を受ける対象のニーズに即した、正確かつ安全な与薬技術の基本を学ぶ。
看護研究 I・II	最近の研究の動向や研究方法の特徴などについて理解し、研究論文の書き方について学ぶ。看護研究I及び、これまでに習得した知識・技術・態度を統合して、看護研究の進め方について学ぶ。
救急蘇生法 I・II・III	根拠に基づいた心肺蘇生を中心とした救急看護の理論と基礎的技術を学び、多様な救急場面において速やかに行動できるよう心肺蘇生について継続的に学習する。
地域看護学	「地域コミュニティを軸とした協働のまちづくりの実践について」行政担当による講義を踏まえて、コミュニティの意義とあり方が理解でき、看護師が行う地域看護活動について学ぶ。
看護演習 I～XI	既習学習を総合し、模擬患者に必要な看護援助を根拠に基づいて実践する。臨床実習で受け持った患者への看護を振り返り考察し、対象に必要なより良い援助のための一般原則や実践理論について学びを深める。看護を学生間・教員と探求する。